



伊木まり子後援会ー生駒の未来をつくる会
 〒630-0261 生駒市西旭ヶ丘1-2 Tel 0743-71-6601 Fax 0743-73-3460
 E-mail: ikomanomirai@iris.eonet.ne.jp URL: http://www.eonet.ne.jp/ ikomanomirai

伊木まり子と 生駒の未来をつくる会ニュース

第1巻 第2号

発行日2007年3月31日

ハイライト:

- ・ 1日も早く市民の病院をつくらう!
- ・ 生駒市には子どもが入院できる病院がありません。
- ・ 市内には24時間365日救急患者の受け入れができる病院がありません。
- ・ 医療体制の整備は安心生活の基盤です。

目次:

| | |
|-------------------------------------|---|
| 安心して生まれ、育ち、暮らせる我がふるさと生駒をつくらう | 1 |
| 誠実、実直、医療のプロ、伊木先生を応援します | 1 |
| あまりに乱暴だった生駒総合病院の閉院 | 2 |
| 生駒総合病院の閉院で、生駒市には子どもが入院できる病院がなくなりました | 2 |
| 大人が急病で入院できる病院も不足しています | 2 |
| 新病院整備専門委員会の答申に基づき、1日も早く市民の病院を | 3 |
| 自然を生き、人にやさしいまちづくりを | 3 |

安心して生まれ、育ち、暮らせる我がふるさと、生駒をつくらう

伊木まり子は、旧生駒総合病院の前身の大和病院で生まれ、以来ずっと生駒に暮らしています。生駒市は生駒山のふところに抱かれ、大阪や京都にも近いのに豊かな自然に恵まれています。山すそにあるお陰で暑さ寒さも厳しくはなく、たいへん住みやすい所です。開業医も各科そろっており、公的病院である生駒総合病院が控えていることがなんと言っても安心でした。しかし、その生駒総合病院が2年前、突然閉院となり、安心の一角が崩れてしまいました。伊木まり子は多くの市民と一緒に医療の継続



を求めて、署名活動などを行ってきましたが、いまだ新病院開設のめどはたっていません。

一方、甲子園球場73個分の里山を切り開く高山第2工区開発計画もいまだくすぶっており、豊かな生駒の自然も危うくなっています。

これらの問題は市民が立ち上げれば、必ず解決できます。伊木まり子はそのために全力を注ぐ決断をしました。安心して生まれ、育ち、暮らせる我がふるさと生駒をつくるために、さあ伊木まり子と一緒に行動にうつりましょう。今こそ、その時です。

誠実、実直、医療のプロ、伊木先生を応援します

伊木まり子先生は、旧生駒総合病院の皮膚科医長として、長年本市の医療に貢献してこられました。先生は同病院が閉院に至る過程に強い疑問を抱き、同病院の閉院が決定された後も市民とともに医療の継続を求める運動を粘り強く続けてこられました。医師として患者のことを思うと同時に、お父様が院長を勤められていた同病院を本当に愛していたのだと思います。

私は、その熱い思いに敬意を抱いていたので、生駒市新病院整備専門委員会の委員になっていただきました。



今後もしっかりと 山下真 生駒市長 本市の地域医療の充実に力を発揮して頂けるものと期待しております。

あまりに乱暴だった生駒総合病院の閉院

戦後60年の歴史を持ち、生駒市唯一の公的病院として生駒の医療の中心となってきた奈良県国保連合会生駒総合病院は、閉院通知からたったの3ヶ月で、後継医療体制も決まらぬまま閉院とされました。

当時、伊木まり子は生駒総合病院の医局長でしたので、患者さんを無視して強行された閉院の過程をつぶさに見ることとなりました。不安をつのらせる患者さんたちの話を聞き、治療がとどこおることのないようにと、他の病院や診療所の先生宛の紹介状を書く毎日。その数400通近く。こんなことが2度とあってはならない、と強く思ったのでした。この体

署名提出を前に医療存続を訴える伊木さん
20日、生駒市役所



奈良新聞2005年1月21日

験が閉院後も「市民の病院をつくる会」の代表世話人として運動を続ける原動力となりました。

「つくる会」は生駒総合病院の後継医療の確保を求める署名活動を2次にわたって行い、3万筆近い署名をいただきました。その結果、山下市長は新病院建設に向けて動き始めています。一方、議会は3万筆の市民の思いを無視し、

事実上病院建設を妨害しています。それは患者を無視したあまりに乱暴な閉院とまったく同じやり方です。市民の命と健康の問題を市長いじめの政争の具にしている。私はそんな議会を許せません。



生駒総合病院の閉院で、生駒市には子どもが入院できる病院がなくなりました

白銀も黄金も玉も何せむに
まさされる室、子にしかめやも
山上憶良

信じられないような話ですが、現在、生駒市内には肺炎や腸炎など身近な病気にかかった子供が入院できる病院がありません。現状では奈良市や郡山市で入院先を探して入院しています。生駒市の南部には近畿大学医学部奈良病院があ

りますが、この病院は相当重症の子ども以外は受け入れません。初めはちょっとした病気だと思っても、子供の病気は進行が早いのが特徴です。入院先を探している間に手遅れになってしまったら取り返しがつきません。入院先が見つかったとしても、遠方の病院だと病気の子の世話を時間をとられ、他の子供の世話がなくなる、それが子供をもつ家庭の現実です。



大人が急病で入院できる病院も不足しています

たとえば、脳卒中は減ってきてはいますが、未だに要介護高齢者の原因の約40%を占めています。発病後早期に適切な治療をすれば、生命や身体機能の回復がよいことがわかっています。しかし、現状では必ずしもそのような対応がとれる訳ではありません。また、在宅の

お年寄りの具合が悪くなったとき、すぐに入院でき、よくなったら、また自宅で訪問診療を受けながら療養する、そのような医療システムが整っていません。そのため、本人はもちろん家族の負担も大きくなっていきます。



新病院整備専門委員会の答申に基づき、一日も早く市民の病院を

平成19年1月13日、生駒市新病院整備専門委員会において、これまでの議論をまとめた中間答申が長瀬委員長から山下市長に提出されました。

中間答申は、新病院の運営形態、新病院に必要な機能、政策医療に対する市の財政的支援、の3点を中心にまとめられています。



市民に関心の高い新病院に必要な機能では、内科、小児科、外科、整形外科の看板を掲げ、小児を含む2次救急に対応することが唱われました。また、すでにある診療所や病院を活かし、連携を強化して無駄のない地域医療を確保します。また、病

気の治療だけではなく、病気の予防に力を入れ、在宅で療養する患者さんを訪問診療や往診で支えます。さらに、地域医療の充実に必要な医療スタッフの研修にも力をいれます。

新病院は、病院運営に関する情報を積極的に市民に公開して、市民・患者と意見交換し、市や医師会と継続的に協議して、市民に必要な医療をわかりやすい形で提供します。

これからの医療は医師や病院にまかせきりではなく、市民も参加してつくっていくものでなくてはなりません。今回の中間答申を活かし、開かれた医療の実現のためにがんばりましょう。



自然を生かし、人にやさしいまちづくりを

高山第二工区ニュータウン開発の当初計画では、市支出金は250億円、甲子園球場73個分の里山を開発し、約2万人が住む街を建設する予定でした。さらには市が140億円負担する市民ホールを含む生駒駅前再開発ビルの建設計画もありました。これらはいずれも白紙に戻して見直さねばなりません。何より両計画とも市民生活にとって病院よりも必要なものとはとうてい考えられません。高山開発に巨費を投じることに賛成し、病院建設に消極的な議員がいることが、私たちには不思議でなりません。

そのような大開発事業よりも、行政はもっと身

近な環境に目を向けるべきです。家の周りの道を見てください。子供を安心して歩かせることができる歩道はありますか。家の前の歩道はでこぼこで細く、車いすやベビーカーは安心して通れません。こんな道をそのままにしている、大切な命が失われたら取り返しがつきません。高山の新規開発より住民の安全を考えたバリアフリーのまちをつくりたいと思います。



大鷹



「白銀も黄金も玉も何せむに まされる宝 子にしかめやも」 山上憶良 万葉集巻五・八〇三

この歌は万葉集巻五・八〇二「瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして偲はゆ いづより来りしものそまなかひに もとなかかりて 安いしなさぬ」(瓜を食べば子供が思われる。栗を食べばさらに一層偲ばれる。どこから来たものであろうか、子供の面影が目先の先にわけもなくしきりにちらついて、なかなか眠れないことよ。)の反歌として詠まれたもの。

歌の意は「白銀も黄金も宝玉も何ほどのことがあろう。すぐれた宝と言っても子におよぼうか、いや、およびはしない」子を思う親の心を表した歌です。いつの時代にも、親は子を思い、大切に育てます。願わくは、それをしっかりとサポートする我がふるさと、生駒でありたいものです。

〒630-0261 生駒市西旭ヶ丘1-2
電話 0743(71)6601
FAX 0743(73)3460
E-mail: ikomanomirai@iris.eonet.ne.jp
URL: http://www.eonet.ne.jp/~ikomanomirai



伊木まり子と生駒の未来をつくる会

安心して生まれ、
育ち、暮らせる
ふるさと生駒をつくらう

ホームページもご覧ください。
[http://eonet.ne.jp/
~ikomanomirai/](http://eonet.ne.jp/~ikomanomirai/)

伊木まり子と生駒の未来をつくる会は、生駒総合病院医師として働き、生駒総合病院閉院後もそれに代わる医療を確保するために「市民の病院をつくる会」の代表世話人としてがんばってきた伊木まり子を中心に、同病院元眼科医長、奥田隆章医師を会長として発足しました。まだまだ新しい団体ですが、医療問題を中心に、環境問題、議会・行政の透明性の確保などに取り組んでいます。

より住みよいふるさと生駒のためにがんばります。

市民みなさんのご参加を
お願いします！

Dr. Marikoの健康ひとくちコラム 7つの健康生活行動。あなたはいくつしていますか。



人の健康は何によって決まるのでしょうか。遺伝子？ 環境？ 生活習慣？ すべてです。でも、遺伝子は生まれながらに親からもらったものなので、自分の力では変えられません。変えられるのは生活習慣。そして、がん、心臓病、脳卒中、糖尿病、高血圧、骨粗しょう症、日本人の死因の70%以上を占めるこれらの病気の原因の多くは生活習慣なのです。

今回は健康に豊かな人生を歩むための秘訣をお教えしましょう。それは以下の7つの習慣を守ることです。

1. 朝食を食べる
2. 標準体重を維持する
3. 週2回以上運動する
4. タバコを吸わない
5. 大酒を飲まず、週1日以上以上の休肝日
6. 1日7時間以上眠る
7. ストレスをためない

この7項目がすべて実践できれば、がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病などにかかる可能性がぐんと下がります。全部は無理でも5つくらいはしてほしいな。あなたのため、そしてあなたの大切な人のため、今日から、いえ、明日からでいいので、実行してみてください。